

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 6日は、低気圧が日本海西部へ進み、前線が西日本付近へのびる。
- 7日は、日本海の低気圧が北日本付近へ進む。別の低気圧が本州南岸から三陸沖へ進む。
- 8日から9日は、低気圧が千島近海へ進み、北日本中心の冬型の気圧配置となる。
- 10日は、北日本中心の冬型の気圧配置が続く。高気圧が黄海付近へ移動する。

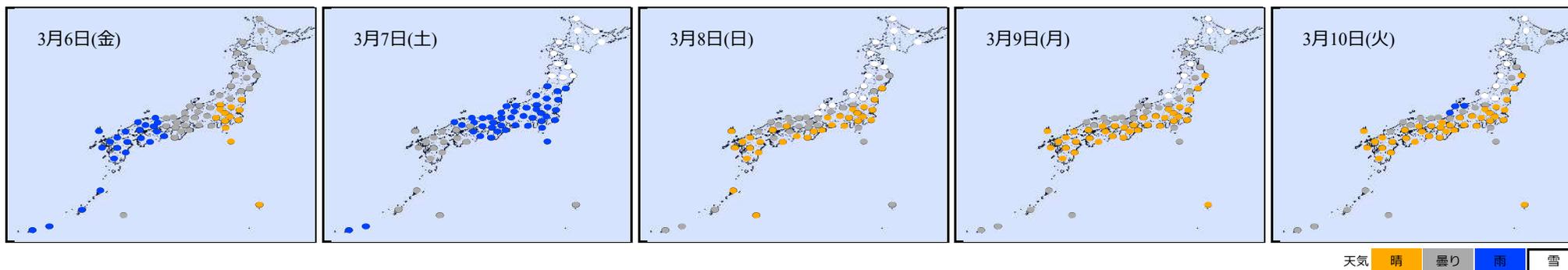
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 8日頃は、発達する低気圧の影響で北日本を中心に荒れた天気となり、低気圧の発達の程度等によっては大荒れとなる可能性がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

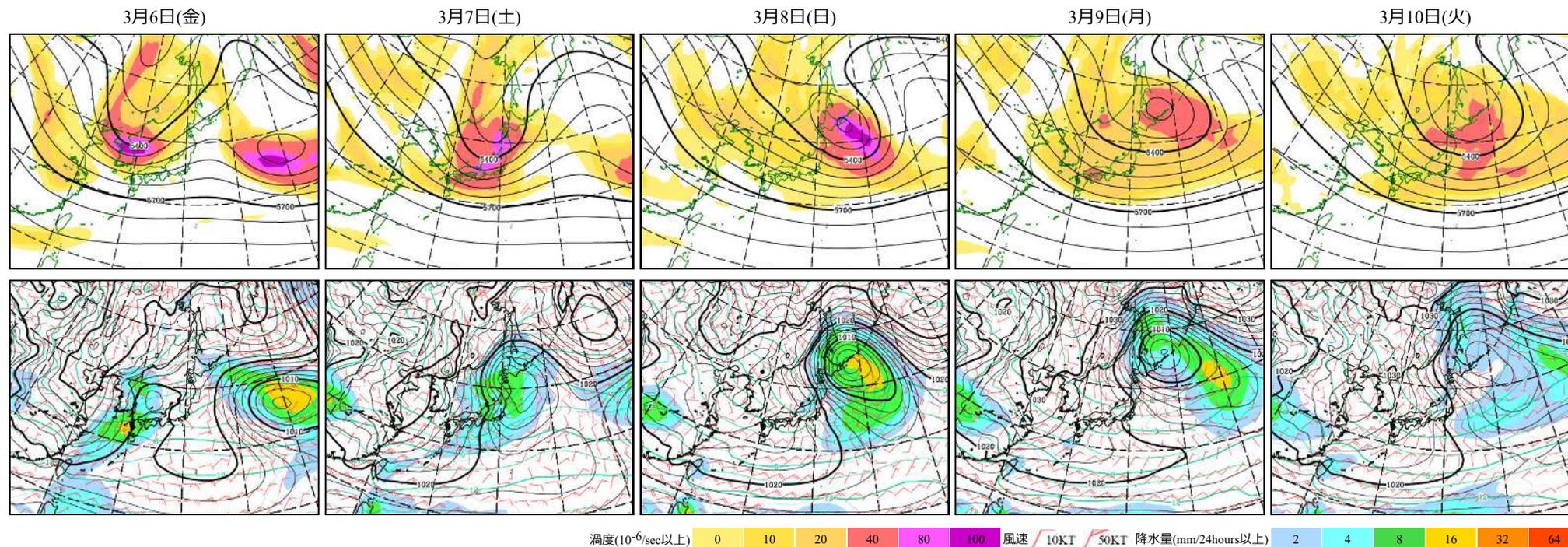
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

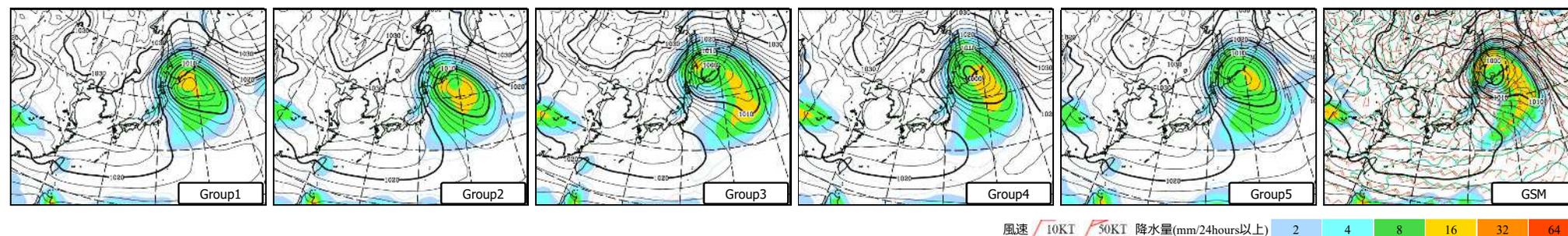


- 北日本と東日本日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多いが、7日は雨または雪の降る所が多い。
- 西日本は、晴れまたは曇りの日が多いが、6日と7日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、6日から7日にかけては雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月8日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、7日頃は日本付近のトラフが深くなり、北日本付近へ進む低気圧の発達が強まった。また、8日から10日にかけてはオホーツク海付近の寒冷渦が深くなり、千島近海の低気圧が強まり、北日本日本海側の降水確率ガイダンスが大きくなった。
- 各モデルとも、6日から7日は低気圧が日本海から北日本付近へ進み、前線が本州付近を通過する予想。その後は、ENSとGSMは北日本中心の冬型の気圧配置が続く予想だが、海外モデルは日本の南に気圧の谷を予想しており、モデル間の差が大きい。
- スプレッドは、期間の終わりはやや大きく、5400m付近の寒冷渦の動向はばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。